
2021 年度 事業報告書

特定非営利活動法人
アントレプレナーシッ
プ開発センター

〒604-0866
京都市中京区西方寺町 160-2
船越メディカルビル 3F
TEL:075-468-8907 FAX:075-468-8908

アントレプレナーシップ開発センターが目指すもの:

アントレプレナーシップ溢れる人材育成と社会の実現

目次

はじめに	1
2021 年度 事業概要 SUMMARY	2
2021 年度 活動報告 ACTIVITY REPORT	4
2021 年度 決算報告 FINANCIAL REPORT	20

はじめに

2021 年度も、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、緊急事態宣言が発令・延長されるなか、当センターでは、前年度に引き続き、様々な制約のもと活動を実施することを余儀なくされました。しかしながら、皆様の暖かいご支援とご協力のお蔭を持ちまして、計画しておりました活動を概ね実施し、継続事業も中止することなく行うことが出来ました。

まず、寺町商店街での「ジュニアリーダーズクラブ for Social Action」では、メンバーの子供達がコロナ禍で外出がままならない高齢者の方々へのバーチャルツアー「ぶらり京散歩」を企画し、動画を作成して福祉施設に届けたり、目の見えない人とも一緒に楽しめる目隠しパズル「アニマーサル」を開発して地域の人と一緒に遊ぶ交流会を開催したりと、自分達が出来ることを前向きに取り組んでくれました。「子どもの起業村～キッズベンチャータウン」は、規模を縮小し「キッズベンチャー道場」として開催し、少人数ながら自分達の起業アイデアを形にして、発表する機会を作れました。「里山の恵みを届ける手仕事体験」では、自然の恵みを活用した物作りを通じて、地域の良さを体験したり、町外の人に発信したりしました。そして、第二回目になる小中学生対象の起業アイデアコンテスト「Kyoto アントレプレナーチャレンジ」では、採択された 6 つの活動に参加する子供達が立派に提案アイデアを形にして成果を出していました。川崎市の委託で、企画・運営しました小中学生対象の「かわさきジュニアベンチャースクール」では、関東圏には起業に興味を持つ子供達が大量いることを実感する良い機会となりました。

2004 年から続けております高校生の国際競技「Global Enterprise Challenge (GEC)」の国内予選は、今年も参加者が増え、過去最高の 89 校 91 チーム(573 名)の高校生のエントリーがありました。入賞した 3 チームは 2022 年 5 月 28 日開催予定の世界大会に向け、準備しているところです。第 21 回目を迎えた起業教育の実践見本市「ユースエンタプライズ トレードフェア」は、昨年にも引き続きのハイブリット開催となりましたが、別途リアルな展示販売会を開催することもでき、発展的な取り組みとなりました。

いずれの事業でも、コロナ禍のなか、大人顔負けの活躍をする若者達を見て、彼らの無限の可能性を感じる 1 年でもありました。

一方で、世界各地で人権や民主主義が脅かされる状況が発生しています。これからの社会が、若者達にとって希望溢れるものになるには、彼ら自身が未来を切り開きより良い社会を創っていけるアントレプレナーシップが不可欠です。時代の担い手達に、その力が備わるように、皆様には、引き続き良き応援者として、当センターの活動をご支援賜れますよう何卒よろしくお願いいたします。

令和 4 年 5 月末日

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター
理事長 原田紀久子

2021 年度 事業概要

Summary

事業内容	対象・実施日・場所	成果
1.能力開発のための研修・講義・講座の提供		
【ジュニアリーダーズクラブ for Social Action】 身近な社会問題について考え、自分達ができることを提案して実践するなかでソーシャルリーダーとしての資質を育成する講座（2020～） 助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」	対象：小学生 5 年～中学生 日時：毎月第 1,3 土曜 日午前 9:30-11:30 場所：寺町商店街(京都 ペレット町家ヒノコ2F) 参加者：延べ約 170 名	コロナ禍で一部オンラインでの活動を余儀なくされたが、子供達の自発的な提案により、高齢者向けのバーチャルツアーや目の不自由な人とも一緒に遊べる目隠しパズルの開発など意義ある活動が行えた。
【Kyoto アントレプレナーチャレンジ】 小・中学生対象の事業アイデアコンテスト。採択事業には、その実現に向けて助言や経費的な支援をし、最後に優秀な取り組みを表彰するもの。今年は、6つの事業提案を採択し、8 月末～2 月末の間に、提案事業を実現した。(2020～) 補助：京都府「起業するなら京都・プロジェクト」起業体験推進補助事業	対象：京都府内の小・中学生 日時：公募締切 7/11、 事業実施 8 月末～2 月末、 事業報告会 3/6 参加者：応募者 411 人 + 採択事業への参加者 約 1500 人	子供達がアイデアの実現の為に主体的に地域の大人達の助言や協力を得て、いずれのチームも提案した事業を形にすることが出来た。中には、行政が行うより多くの人を集客したイベントもあり、子供達の力を見せてくれる取り組みとなっている。
【キッズベンチャー道場】 子供達が取り組む課題を決めて、そのために「こんな製品やサービスがあったらいいな」という未来の仕事のアイデアを形にして展示発表する活動。 コロナ禍で、多数の人が集まる発表活動を催すことが難しく、昨年度まで実施していた「子供が創る起業村～キッズベンチャータウン」から名称変更して実施。(2017～) 助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」、公益財団法人双葉電子記念財団「青少年創造性開発育成事業」	対象：小学生 5 年～中学生 日時：7/24-10/30 隔週土曜午後 8 回 場所：京都信用金庫 Questionビル 参加&協力者：約 30 名	コロナの感染防止対策のため、広報活動が制限されるなか、少人数での実施となり、発表会も保護者や関係者のみの招待制となった。アットホームな雰囲気できめ細やかな指導も出来、子供達同士が密に交流するなどメリットもあったが、多様な人との交流から得られる学びという点では課題を残した。
【里山の手仕事体験ワークショップ】 亀岡市西別院町、東別院町の子供達と一緒に、里山の恵みを活用したモノづくりを体験・交流することで、別院地域の良さを知り特任校制度のある両地区の小学校への通学者を増やしたり、移住につなげたりする取り組み。(2020～) 助成：一般財団法人 YS 市庭コミュニティー財団	対象：地元の小学生と移住を検討している親子 日時：7/4(日), 8/1(日) 場所：犬甘野営農組合、犬甘野上ノ谷公民館 参加者：約 50 名	コロナ禍が続く、実施内容を一部変更したが、瓢箪ランプ作りや草木染を行い、地元の祭りを体験してもらうなど楽しい活動となった。また、移住家族が 1 件出て地元の小学校に通学する子供が増えたことや地域紹介のサイト betsuin.net が出来たことも良かった。
【かわさきジュニアベンチャースクール】 次世代を担う若者達に、失敗を恐れず新しいことに挑戦できるアントレプレナーシップを身につけてもらうことを目的に、8 日連続講座と市内企業による特別講座の企画・運営。(2021 年度の受託事業) 主催：川崎市 協賛：日本電産株式会社、富士通株式会社	対象：川崎市の小学生 5 年～中学生 日時：11/6(土)～2/26(土)のうち8回 と企業提供講座実施 場所：かわさき新産業創造センター AIRBIC 参加者：30 人、講師・審査員等協力者：約 10 人	熱心な子供達が参加し、川崎市の起業家の方を中心に良い助言を得る機会もあり、最終的に提案アイデアをしっかりと形にして発表出来た。コロナ禍で、発表会が保護者と関係者のみの招待となったのは残念だったが、参加者の評価が高いものとなったことが良かった。

2.普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営		
<p>【Global Enterprise Challenge (GEC)】 高校生対象の 12 時間のオンラインでのビジネスアイデアの国際競技。世界大会 Global Youth Entrepreneurship Challenge は 2017 年からインドネシアの団体と一緒に主催。(2004～) 協賛:有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、日東薬品工業ホールディングス株式会社、株式会社堀場製作所、協力:京都技術士会</p>	<p>対象:高校生 日時:日時:世界大会 2021/5/29、国内予選 2022/3/27 場所:オンライン 参加者:世界大会:23 か国から 43 チーム (277 人),国内予選: 89 校から 90 チーム (558 人) 協力者:45 人</p>	<p>昨年度から事前学習会もオンライン開催としたことから、コロナ禍の中、参加者は過去最高となった。また、世界大会は、新しくマレーシアでパートナー団体が立ち上がり、国内予選のない国には 1 次予選を設けるなど、競技として成長している。審査では多くの専門家の方にボランティアで参画・応援頂き、感謝に堪えない。</p>
<p>【ユースエンタプライズ トレードフェア】 地域と連携した起業教育の実践活動を行う小学生～大学生の成果発表会。優秀な取り組みを表彰。昨年度に続き、今年もオンライン開催となったが、別途 3 月に展示販売会をリアルで開催。(2001～) 協賛:株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、京都信用金庫、株式会社島津製作所、株式会社 SCREEN ホールディングス、株式会社井筒八ッ橋本舗、オムロンヘルスケア株式会社、有限会社 Ek、よーじやグループ</p>	<p>対象:小学生～大学生 日時:11/21(日)、3/12(土) 場所:京都経済センター 3 階 KOIN/オンライン、京都信用金庫 Question ビル 参加者:23 チーム約 150 人+販売会出展者約 50 名</p>	<p>昨年に続きハイブリッド開催となったが、事前に試作品を送付してもらうことで審査員が商品を見ながら質疑応答でき、より臨場感のある発表会となった。また、審査中、オンラインでの参加者交流も行えた。3 月には希望者対象に出展販売会も開催し、実際の接客を体験することも出来た。</p>
3.実践を後押しするための教材・教育プログラム開発や導入支援		
<p>【Youth Enterprise】 小学生～大学生の起業家教育の活動を発信・交流できるオンラインの教育プログラム。利用する当事者が主体となって活動を発信でき、「応援したい」ボタンのクリック数などで事業評価を一般から得られるようになってきている。(2014～)</p>	<p>対象:小学生～大学生 日時:随時 場所:オンライン 参加者:27 プロジェクト</p>	<p>実践の様子を誰もが見て応援できるようになっていることから、中には、応援数が 3 万 5 千近くになっている活動もあり、支援者を増やすための情報発信の学習としても良い成果を上げている。</p>
<p>【アントレプレナーシップ教育の指導者研修】 アントレプレナーシップを推進する教育活動の指導者向けの研修提供や授業運営の企画を支援。</p>	<p>日時:随時 場所:オンライン 参加者:学校や教育団体</p>	<p>福島県の中学校や長野の NPO 団体、福岡の専門学校等でのアントレプレナーシップ教育の導入のための研修を実施した。</p>
4.事業理解を進めるための調査・研究・情報発信		
<p>HP や月一回のメールマガジン、SNS 等によるセンター活動の報告・案内を行っている。</p>	<p>随時、メールマガジンは毎月 25 日発行</p>	<p>昨年度 HP を改訂したことでサイトからの情報発信がしやすくなったが、広報のため、多様な SNS の利用には課題が残っている。</p>
5.その他 この法人の目的を達成するために必要な事業		
<p>委員やインターンの受け入れ等</p>	<p>随時</p>	<p>夏～秋にかけて 2 名の大学生が大学コンソーシアム京都の派遣でインターンとして参加した。</p>

2021 年度 活動報告

Activity Report

1. 能力開発のための研修・講義・講座の提供

➤ ジュニアリーダーズクラブ for Social Action @寺町商店街

対象者:小学生5年~中学生

活動日:第1・第3土曜日 9:30-11:30

活動場所:京都ペレット町家ヒノコ2階

主催:特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

助成:独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」

後援:京都市教育委員会

本事業では、子供達が実際に身近な社会問題について考え、その解決に貢献できる事業を提案して、実際に取り組むことで、リーダーとしての資質を伸ばすことを目的としています。

2021年度は、前半は、コロナ禍で外出が出来ない高齢者の方々を対象に、出かけたい場所を撮影した動画を編集して渡すバーチャルツアー「ぶらり京散歩」というプロジェクトに取り組みました。そして、要望のあった5か所の動画を福祉施設の入居者の方に届け、喜んで頂きました。後半は、目の見えない人も楽しく一緒に遊べる目隠しパズル「アニマーサル」を開発し、その試作品を試してもらう会を1月30日に“Winter Festival”と題して開催。パズルだけでなく、寺町商店街をめぐるクイズラリーやSDGsのボードゲームに挑戦してもらい、手作りのマグネットをプレゼントしました。また、目隠しパズル「アニマーサル」は京都市動物園に訪問して、商品化のための営業も行いました。職員の方やお土産物売りの店長さんから高い評価を得ることが出来ましたが、残念ながら、まだ商品化には至っていません。



作成した動画を施設で見ってもらう様子→



▶ 小・中学生の起業アイデアコンテスト「Kyoto アントレプレナーチャレンジ」 令和 3 年度京都府「起業するなら京都・プロジェクト」起業体験推進補助事業

対 象 者: 京都府内の小・中学生

活 動 日: 6 月初めから募集開始し、8/8 日に審査結果を発表、その後 2 月迄にアイデアの実現
3/6(日)に京都経済センターの KOIN(オープンノベーションカフェ)にて事業報告会

主 催: 特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

後 援: 京都府、京都府教育委員会、京都市教育委員会

本事業は、未来を創る当事者である小・中学生に、自分達の身近な問題に目を向け、その解決に貢献できるアイデアや京都の豊かな資源を活用したアイデアを募り、それを実現するお手伝いをする事で、アントレプレナーシップの育成を奨励するものです。

2021 年度は、6 月 1 日から公募を始め、88(411 名)の応募があり、1 次(書類)選考にて 11 の事業提案に絞られた中から、2 次(面接)選考を経て以下の 6 つの提案アイデアを採択しました。採択者に対しては、8 月末～2 月末まで、月 2 回オンライン会議にて専門スタッフから助言指導を行い、互いに活動の進捗状況を報告して学び合いながら、企画内容を形にして行きました。そして、全てのチームが、提案した事業アイデアを概ね実現し、又は、それ以上の成果を上げて終えることが出来ました。

3 月 6 日には、京都経済センターの KOIN にて事業報告を行い、精華町でのスタンプラリーを開催し 700 人以上を集客した精華町立精華台小学校 6 年生の『セイカメリット大発見!』に知事賞が、地産地消 100%ハンバーガーの販売と地域の店での商品化を実現した伊根町立本庄小学校の 5・6 年生の『われらが本庄 魅力伝えたい!』にアントレプレナー大賞が授与されました。

<採択事業>

『セイカメリット大発見!』(精華町立精華台小学校 6 年) 知事賞受賞

精華町に住む人々が町の良さを改めて知り、また町外の人々が精華町に興味を持ってもらうイベントとして、スタンプラリーを開催。役場の人やスタンプラリーで回る店舗の方に協力を依頼し、景品や商品の提供を受けるなどして、無料で多くの人々が楽しめる工夫をしました。スタンプラリーは紙にスタンプを押せる形式とスマホで集められる 2 方式を採用。当日は、771 人の方が参加され、大盛況のうちに終了!



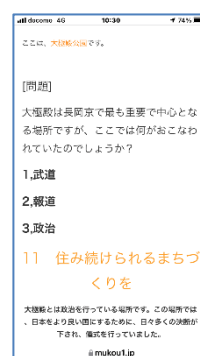
『われらが本庄 魅力伝えたい!』(伊根町立本庄小学校 5,6 年生) アントレプレナー大賞受賞

伊根町本庄の魅力をたくさんの人に伝え、「地産地消」の良さを発信することを目的に、地域の農家を訪問取材し、地元の食材 100%で出来たハンバーガーを考案。伊根湾めぐり遊覧船乗り場で販売会を実施。15 分で 120 個が完売! その後、大好評だったハンバーガーが地域で定着するように、地元のレストランで販売してもらえるよう交渉し、舟屋日和の INE Cafe で 3 月末にプレ販売が行われました。



『向日市の良さをアピール!!』(ボーイスカウト向日第一団)

向日市のあまり知られていない自然や歴史について知ってもらうために、歩きながら向日市について学べるクイズラリーを開催。自然がメインの竹の径コースと歴史がメインの向日神社コースの2つを設け、SDGsについても楽しく学べる工夫もいれました。クイズは、親子で回ってもらえるように、訪問場所にQRコードを設けてスマホで読み取ってクイズに回答する方法を取りました。当日は、ボーイスカウトのメンバー全員が協力して運営し、190人が参加するイベントとなりました。



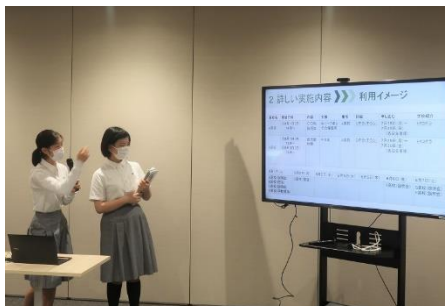
『ICHIZEN』(京都市立桃山中学校 2年)

つかむ力が弱くなった高齢者の方向けに、マグネット付のお箸を開発して提供することを目的に活動。既にあるマグネット箸を取り寄せて研究し、自分達で試作を重ねた箸のデザインを竹加工の専門職人さんに作ってもらいました。マグネットのメリットを体験してもらえるお箸を作るのは思ったより大変で、物作りの難しさややりがいを体験した活動となりました。



『Be the Explorers!!～進路探検隊～』(京都市立大枝中学校 2・3年)

中学生の立場で、中学生が本当に欲しい進路情報について紹介する進路情報サイトを自分達で制作し、大枝中学校の生徒会で継続的に運営していくプロジェクトです。高校の複雑な入試制度の開設や、京都市立・京都府立・私学などでバラバラになっている京都府内の進学先の基本情報を集約し、説明会等の案内を整理して発信しています。



『花背を紹介！ちまきプロジェクト』（京都市立花背小中学校）*継続事業

祇園祭の厄除けチマキに使われている花背の『チマキザサ』が絶滅の危機にあることを多くの人に知ってもらうとともに、花背の魅力について発信するプロジェクトです。2021 年度は、チマキザサを使った粽を地域の人達に協力してもらって販売するだけでなく、その取り組みについて大人の集いで発表したり、花背を訪問された方に粽づくりを指導したりしました。加えて、花背の HP「Hanase Navi」を作成して地域のイベントやおススメスポットを紹介したり、ラジオで自分達の活動について話したりと、地域の発信に貢献しました。また、別の団体が主催するボランティアスピリットアワードに応募し、昨年度の活動が認められて、関西ブロックの SPIRIT OF COMMUNITY 奨励賞を受賞しました。



➤ 未来を創る仕事を生み出そう！～キッズベンチャー道場

対象者：小学生 5年～中学生

活動日：7月24日(土)～10月30日(土) 隔週土曜 14:00-16:00 8回講座

活動場所：京都信用金庫 Questionビル 4階セミナールーム他

主催：特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

協力：京都信用金庫

助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」

公益財団法人双葉電子記念財団「青少年創造性開発育成事業」

後援：京都市教育委員会、青少年と科学の会

本事業は 2017 年度から実施している「子どもが創る起業村～キッズベンチャータウン」が、コロナ禍で大勢の人が集まることが難しいことから、講座の名称を「キッズベンチャー道場」と改変して開催しました。しかし、新型コロナウイルスの感染者が増加に転じている時期の開講となり、広報が十分出来ず、参加者が少ない中での活動となりました。それに対応して、事業の取り組みは、チームではなく、個人で一つのアイデアを形にすることで、全員が自分の提案したことを実現することが出来ました。

事業内容は、「家事手伝いと子供の学習支援を同時にする「家庭教師+家事代行」サービス」、「廃棄処分される食材を活用して暖かい食事を提供するレストラン」、「教育機関対象に虐めをなくす支援サービス」、「日本の学校教育で才能が埋もれてしまう子供と、その才能を伸ばしてくれる専門家をつなぐサービス」「不必要になった衣料品を新しい商品に作り替えて販売するサービス」等、社会性の高いものとなりました。

ただ、コロナ禍の中、1 回の講座の時間を 2 時間としたことから、全体の活動時間が少なくなり、事業内容を充分深められませんでした。また、参加者が少なかったことから、互いの意見や取り組みから学んだり、交流したりという機会も限られ、コロナとの共存の中で、子供の学びをどのように担保していくかが課題です。





➤ 里山の恵みを届ける手仕事体験@亀岡市西別院町

対象者: 地元の小・中学生と移住に興味ある方

活動日: 7月4日(日) 瓢箪ランプ作りと御田祭り & 8月1日(日) 草木染のエコバック作り

活動場所: 犬甘野営農組合(7/4)・上ノ谷公民館(8/1) (亀岡市西別院町犬甘野)

主催: 特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

共催: 西別院町自治会・東別院町自治会

助成: 一般財団法人 YS 市庭コミュニティー財団

協力: 農事組合法人犬甘野営農組合、京の田舎くらし、ふるさとセンター、一般社団法人森の京都 DMO、林業女子会@京都

後援: 亀岡市、亀岡市教育委員会

本事業は、過疎化・高齢化が急速に進む亀岡市の別院地域にて、移住や田舎での子育てに興味がある人を対象に、学校教育の内容や子育て環境等についての紹介し、地元の子供達と一緒に里山の恵みを活用したモノづくりを体験・交流することで、別院地域の良さや特任校制度のある両地区の小学校について知ってもらう活動です。また、地域の子供達には、自分の故郷の良さや田舎での生業づくりについて知る機会を作ると同時に、地元の起業家のお話を聞く等して、職業の選択肢に起業を付け加えるきっかけ作りを目指しています。

結果として、2021 年度には、前年度に続いて、1 家族の移住があり、西別院小学校に秋から通学する子供が一人増えました。また、両別院町を紹介するホームページも作成し、地域の魅力発信に貢献しています。

<7/4(日)瓢箪ランプ作りと御田祭り>





<8/1(日)草木染のエコバック作り>



➤ かわさきジュニアベンチャースクール

対象者:川崎市の小学生 5 年～中学生

日 時:連続講座 12/5(日)～2/26 (土)のうち 8 回、企業提供講座 11/6 (土)、12/11(土)

場 所:かわさき新産業創造センター AIRBIC の会議室他

主 催:川崎市

協 賛:日本電産株式会社、富士通株式会社

協 力:慶應義塾大学殿町タウンキャンパス

後 援:川崎市教育委員会

事務局:NPO 法人アントレプレナーシップ開発センター

本事業では、川崎市の委託を受け、次世代を担う若者達に、失敗を恐れず新しいことに挑戦できるアントレプレナーシップを育成したいということで、川崎市在住の小中学生を対象とした 8 日間連続の起業体験プログラムを当センターが企画し、講座運営を担いました。

無料ということもありましたが、協賛企業提供の講座も含め、応募開始 10 日ほどで定員が一杯になり、ニーズの高さを実感しました。参加者の中には、起業に関心を持った子供が多く、講座初日に行ったアンケートでは、「起業に興味があって、ぜひ自分もいつかチャレンジしてみたい」(56.7%)、「起業に興味があり、将来機会があれば自分でもやってみたい」(30%)と回答しており両方を合わせると 9 割近くが起業への前向きな興味を持っていました。

講座中も、積極的に発言する子が多く、起業家の講演でも、質問が途絶えませんでした。また、講座終了時のアンケート調査でも、全員が「参加してよかった」「講座が役立った」と回答し、93%が「また同じような講座があれば参加したい」を選んでいました。2 月 13 日の展示発表会に参加した保護者アンケートでも、全員が展示発表会を「大変良かった」と評価し、「子どもが意欲的に参加していた」「講座は期待していた内容だった(期待以上だった)」と、講座に対して高い満足度が見られました。



2. 普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営

▶ 世界大会 Global Youth Entrepreneurship Challenge 2021

対 象 者: 世界各国の高校生

活 動 日: 2021 年 5 月 29 日 8:00-20:00

主 催: 特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

協 力: 京都技術士会

本競技は、若者の科学技術やイノベーションへの興味を喚起するために、15 歳～19 歳の高校生を対象に実施する 12 時間の国際競技です。国内予選と世界大会の二つのステージからなり、当センターは 2004 年から国内予選(Global Enterprise Challenge)をホストし、2016 年から世界大会(Global Youth Entrepreneurship Challenge)のホストも担っています。

2021 年の世界大会には、23 か国から 43 チームの高校生約 280 人が参加し、日本の広尾学園高等学校 3 年生の Laurel チームが 1 位入賞を果たしました。

<課題(challenge)> 砂漠化した土地の再生への新たなビジネスの提案

「to take on desertification, and while using science and technology, propose an innovative business that aims to revive land and soil that has been damaged by droughts, floods and other natural and human causes.」

■参加チーム: 43 チーム(23 か国)

■入賞チーム

- 1 位(最優秀賞) - Laurel チーム、広尾学園高等学校、日本
- 2 位(優秀賞) - Mystery Inc.チーム、混成チーム、アメリカ合衆国
- 特別賞 - Magis チーム、Xavier School、フィリピン



Laurel チーム



Mystery Inc.チーム



Magis チーム

国内予選 Global Enterprise Challenge 2022

対 象 者: 日本国内の高校生

活 動 日: 2022 年 3 月 27 日 8:00-20:00

主 催: 特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

協 賛: 有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所、
公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、ニチコン株式会社、
日東薬品工業ホールディングス株式会社、株式会社堀場製作所

協 力: 京都技術士会

後 援: 経済産業省近畿経済産業局、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、
京都府私立中学高等学校連合、公益財団法人全国商業高等学校協会、青少年と科学の会、
国立研究開発法人科学技術振興機構、独立行政法人国立高等専門学校機構

今年は、全国 89 校から 91 チームがエントリーし約 550 人の高校生が参加しました。そして、3 月 13 日の事前学習会での模擬練習を経て、3 月 27 日の国内予選にてトップ 3 位のチームが選ばれ、5 月 28 日の世界大会に出場予定です。

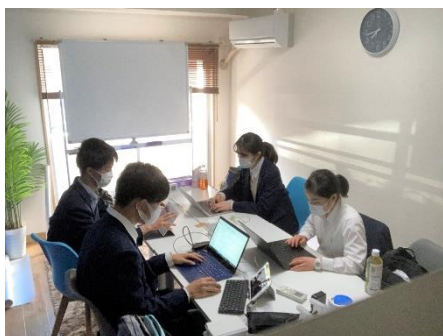
<課題(challenge)> 「脱炭素化」を進めるために必要な革新的な事業アイデアの提案

「To develop an idea for an innovative enterprise that, by utilizing ongoing developments in science and technology, would contribute to eliminating energy waste through decarbonization and thereby reduce the burden on the next generation.」

■参加チーム: 90 チーム

■入賞チーム(日本代表チーム)

- 1 位 - 慶應義塾湘南藤沢高等部 1 年 Sific チーム
- 2 位 - AICJ 高等学校 3 年 Damselyfly チーム
- 3 位 - 桜蔭高等学校 2 年 Glow Of Diamonds チーム



➤ 第21回 ユースエンタプライズ トレードフェア

対象者:起業教育を実践している小学生～大学生

活動日:2021年11月21日 9:30-17:30 & 2022年3月12日(土)10:00-17:00

場所:11/21-京都経済センター3階 KOIN(オープンイノベーションカフェ)+オンライン
3/12-京都信用金庫 Questionビル1階チャレンジスペース

主催:ユースエンタプライズ トレードフェア実行委員会

(事務局:特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター)

協賛:株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、京都信用金庫、株式会社島津製作所、株式会社 SCREEN ホールディングス

賞品提供:株式会社井筒ハツ橋本舗、オムロンヘルスケア株式会社、有限会社 Ek、よーじやグループ

後援:経済産業省、厚生労働省、文部科学省、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、公益財団法人京都産業21、一般社団法人京都中小企業家同友会、一般社団法人京都発明協会、青少年と科学の会、京都府私立中学高等学校連合会、全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会、公益財団法人日本進路指導協会、公益財団法人全国商業高等学校協会、日本キャリア教育学会、一般社団法人日本教育情報化振興会、日本社会科教育学会、特定非営利活動法人日本コミュニケーション&ゲーミング学会

今年で21回目を迎えた「ユースエンタプライズ トレードフェア」は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染防止のため、審査員のみが会場に集まり、発表者はオンライン参加というハイブリット形式での開催となりました。なお、今年は、展示販売の形式をとり、単にプレゼンをオンラインで聞くのではなく、事前に送付してもらった商品(試作品)を実際に手に取りながら、顧客に対面して説明する形で事業発表や審査員との質疑応答を行いました。また、参加者も全員の発表を聞いて一番良いチームに投票したり、審査中に発表者同士がブレイクアウトルームで交流したりするセッションを設け、オンラインではありましたが、昨年度と比較して発展的な発表会とすることができました。

そして、希望者を対象に、3月12日には、リアルな場での展示販売会も行い、12のチームが出展して、自分達の商品を実際に顧客に説明・販売する体験の場を作ることが出来ました。

参加チームが実践している事業活動からは、環境保全や多様性への理解等、若い人達が身近な社会問題について高い意識を持っていることが伺え、審査員からも彼らの取り組みを評価する声が多数ありました。

参加者への事業終了後のアンケートでも、「トレードフェアに参加する様々な準備が学びに役立った」「発表と接客を同時にする必要がなかったので、ゆっくり他校の発表を聞くことができた」、「オンラインでも、発表や審査員との質疑応答の内容から、多くのことを学ぶことができた」と肯定的な意見が多く、多くの参加者が「このような活動が将来自分の職業を考えたり、仕事を通じて社会に貢献する力をつけたりするのに役立つ」と答え、以前より事業経営に興味を持つようになったと回答していました。



<入賞チームの紹介>

●京都府知事賞（社会貢献度が最も高かったチームへ）

賞品：丹後ちりめん「がま口ポーチ」 賞品提供：京都府

○受賞者：スマイクル（名古屋市立大学）

-「すてる責任」を果たすために、液体ごみを排水溝へ流す際に、最も悪影響であると言われる”油分”を取り除く『油吸ってポイ』という商品を開発。



●京都経済同友会賞（地域コミュニティに貢献度の高いチームへ）

賞品：図書カード 賞品提供：一般社団法人京都経済同友会

○受賞者：NISSI カンパニー（亀岡市立西別院小学校）

-地域の人達の協力のもと、無農薬の野菜や玄米に木工のコースターや竹炭等、自然の恵みを生かした商品を開発。

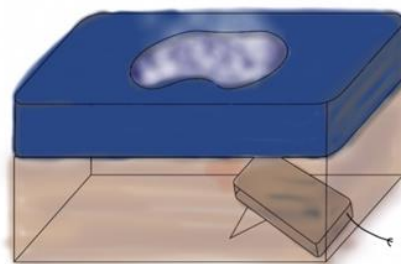


●京都中小企業家同友会賞（ビジネスモデルに新規性や独自性の高かったチームへ）

賞品：京友禅のメガネ拭き「おふき mini」賞品提供：一般社団法人京都中小企業家同友会

○受賞者：ease（名古屋市立大学）

-デスクワークをする人の目の疲れをケアするために、枕にホットアイマスクでおなじみの目を温める機能を付け加えた EYEMAKURA という商品を開発。



●**青少年と科学の会賞**(ものづくりにおいて新しい発想があったチームへ)

賞品:小型のパーソナル加湿器 賞品提供:青少年と科学の会

○**受賞者:TEKICHOKU**(共愛学園前橋国際大学)

-新型コロナウイルスの流行によって、手を洗うことの重要性が再認識されているなか、いつでもすぐに手を洗うことのできるストラップ型携帯石鹸を開発。



●**異能工房賞**(実際に起業するなら応援したいチームへ)

賞品:アマゾンギフト券 賞品提供:有限会社 Ek(エク)

●**スチューデント賞**(発表者が選ぶ一番よかったチーム)

賞品:電動歯ブラシ 賞品提供:オムロンヘルスケア株式会社

○**受賞者:NICO NICO**(名古屋市立大学)

-「違いを受け入れる」という考えを持てるようにする教育のための幼児向け絵本と、「ジェンダー平等」に着目した Tシャツ、トレーナー、トートバッグの製作。

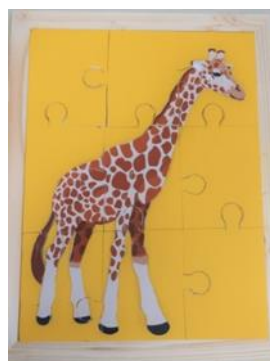


●**特別賞**

賞品:おめでとう三笠 50 個 賞品提供:株式会社井筒八ッ橋本舗

○**受賞者:ジュニアリーダーズクラブ**

-コロナで外出ができない高齢者方を対象に行ってみたい場所を聞き、その場所を私達が撮影して来て動画を編集して渡す、バーチャルツアー「ぶらり京散歩」と、目の見えない人とも楽しく一緒に遊べる子供むけの「目隠しパズル」を開発。



●特別賞

賞品: あぶらとり紙他雑貨セット 賞品提供: よーじやグループ

○受賞者: Grand Pa! Ma! (共愛学園前橋国際大学)

-水分不足が原因で脱水症状を起こす高齢者の方が気軽に水分を接種できるように群馬県産のボイセンベリーという果実を使った お菓子を開発。



●特別賞

賞品: おめでとう三笠 50 個 賞品提供: 株式会社井筒八ッ橋本舗

○受賞者: 茶れんじゃー (同志社女子大学)

-「茶れんじゃー」という戦隊ものをイメージしたレンジャーとなり、動画を通して京田辺市のお茶の魅力を発信。



< 展示販売会の紹介 > 大学生 12 チームが出展・販売をしました





3. 実践を後押しするための教材・教育プログラム開発や導入支援

➤ Youth Enterprise <http://www.youthenterprise.jp/>

小学生～大学生達が、学年段階を超えて、自分達の起業教育の活動を発信しながら、互いに学びあい、また、彼らの支援者が応援者としてプロジェクトの進捗状況を閲覧し応援できるようになっています。

トレードフェアや Kyoto アントレプレナーチャレンジでは、このサイトでの活動発信が表彰のための事前審査の対象となっています。今後も多くの活動に使ってもらえたらと考えています。



➤ 指導者研修等

アントレプレナーシップ教育を実践したい学校や NPO 等の指導者研修をオンラインにて実施しました。また、いくつかの機関で「急速に変化する社会と求められるアントレプレナーシップ」について講演しました。

- 福岡 ECO 動物海洋専門学校 指導者研修 (3/17～5/17 の間 8 回講座)
- 福島県天栄村立湯本中学校 指導者研修 (8 月 4 日)
- 京エコロジーセンター「環境活動パワーアップ講座 2021」(10 月 17 日)
- 東北学院大学人間情報学研究所 公開講演会 (12 月 10 日)
- 京都技術士会 12 月例会(12 月 11 日)
- NPO 法人ぐるったネットワーク大町 北アルプス YouthEntre 実行委員会 (2 月 19 日)

4. 事業理解を進めるための調査・研究・情報発信

➤ HP、ブログ、Facebook やメールマガジンでの情報発信

HP では、随時活動情報や実践の報告を発信するとともに、毎月 25 日には約 6,000 人にメールマガジンを配信しています。

HP:<http://www.entreplanet.org/>

Facebook:<https://www.facebook.com/entreplanet>

<メディア掲載等>

- ・ 2022.3.29:読売新聞「子ども起業案 実践発表 ハンバーガー販売など」
- ・ 2022.3.16:京都新聞「環境に配慮生活雑貨・特産物生かした食品 学生アイデア商品展示」
- ・ 2022.3.7:読売新聞「自分で考える力育む 起業家教育手がける 原田紀久子さん」
- ・ 2022.3.7:京都新聞「社会課題の解決 小中学生が発案 下京で発表会 知事賞に精華台小」
- ・ 2022.2.18:読売新聞「小中学生が発案 事業計画発表会 川崎市ベンチャー講座」
- ・ 2022.2.7:京都新聞「町内カフェや公園巡る 精華でスタンプラリー 770 人参加の盛況」
- ・ 2022.2.4:京都新聞「児童考案 精華の魅力巡り 街の良さ再発見を 精華台小 6 年 5 人スタンプラリー企画」
- ・ 2022.2.3:京都新聞「向日の歴史や自然クイズで巡り実感 親子連れら地図片手に散策」
- ・ 2021.12.17:読売新聞「小学生に起業の心得 川崎市が講座「恐れず挑戦学ぶ」」
- ・ 2021.11.19:京都新聞「バーガーに地元の魅力詰め 伊根・本庄小児童が開発 28 日発売」
- ・ 2021.10.24:読売新聞「子どものアイデア形に 起業家精神育む講座」
- ・ 2021.07.05:京都新聞「里山の暮らし 児童・生徒 PR」亀岡・東西別院 移住希望者向け
- ・ 2021.04.07:京都新聞「政治・選挙 ゲームで学ぶ」東山泉小中生徒が RPG ブック制作

<助成・協賛団体>

 National Institution For Youth Education 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 「子どもゆめ基金助成活動」			
 The Futaba Foundation 公益財団法人 双葉電子記念財団	 日新電機グループ 社会貢献基金		
			
			
 京都外国語大学 Kyoto University of Foreign Studies			
 SHIMADZU Excellence in Science			
	 Explore the future		

<その他の協賛・協力団体>

株式会社井筒八ツ橋本舗、有限会社 Ek、オムロンヘルスケア株式会社、京都技術士会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都中小企業家同友会、青少年と科学の会、株式会社 Hibana、有限会社森三、よーじやグループ

<会員・賛助会員>

青山和典、石塚実、岩田晋一、宇田川幸夫、大口達夫、川勝雪貴、川上重信、黒澤敏朗、酒井朋久、首藤晴美、鈴木三朗、田邊紀彦、谷孝大、角田隆太郎、中澤弘、濱野希望、濱野康子、原田勲、松田直子、真庭功、光田信吾、峯陽一、森木隆浩、横山強、黄錦豪、木村哲也、黒岩絵里子、下村委津子、中塚祐起、中根敏雄、西川昭寛、西田喜久夫、堀田芳子、松田稔樹、水谷修、森義晴、山崎真嗣、吉田隆

2021 年度 決算報告

Financial Report

令和 3(2021)年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書

自 令和 3 年 4 月 1 日 至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	260,000	
賛助会員受取会費	42,000	302,000
2. 受取寄附金		
受取寄付・協賛金	1,187,000	1,187,000
3. 受取助成金等		
受取助成金	1,611,970	
受取補助金	3,000,000	4,611,970
4. 事業収益		
教育教材開発・導入支援事業収益	921,580	
普及促進事業収益	935,954	
研修・講座事業収益	5,770,375	
その他	375,600	8,003,509
5. その他収益		
受取利益	166	166
経常収益計		14,104,645
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費	7,310,881	
(2) その他経費	4,617,256	
事業費計		11,928,137
2. 管理費		
(1) 人件費	600,000	
(2) その他経費	926,110	
管理費計		1,526,110
経常費用計		13,454,247
当期経常増減額		650,398
III 経常外収益		0
IV 経常外費用		0
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		650,398
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		580,398
前期繰越正味財産額		17,430,934
次期繰越正味財産額		18,011,332

令和 3(2021)年度「特定非営利活動に係る事業」貸借対照表

令和 4 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	74,307	
普通預金	20,440,355	
前払費用	110,880	
未収入金	5,583,974	
流動資産合計		26,209,516
2 固定資産		
保証金(敷金)	500,000	
固定資産合計		500,000
資産合計		26,709,516
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,492,432	
前受受益	936,000	
預り金	269,752	
流動負債合計		2,698,184
2 固定負債		
退職給与引当金	6,000,000	
固定負債合計		6,000,000
負債合計		8,698,184
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		6,000,000
当期正味財産増加額		
当期収支差額	12,011,332	12,011,332
正味財産合計		18,011,332
負債及び正味財産合計		26,709,516

令和3(2021)年度「特定非営利活動に係る事業」財産目録

令和4年3月31日現在

(単位:円)

科 目 ・ 摘 要	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金 現金手元有高	74,307	
普通預金 京都銀行西五条企業会館支店	3,342,183	
京都中央信用金庫西大路五条支店	12,086,798	
ゆうちょ銀行(当座預金)	5,011,374	
前払費用	110,880	
未収入金	5,583,974	
流動資産合計		26,209,516
2 固定資産		
保証金(船越メディカルビル事務所保証金)	500,000	
京都市中京区両替町通丸太町南入西方寺町160-2 船越メディカルビル 3F		
固定資産合計		500,000
資産合計		26,709,516
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,492,432	
前受受益	936,000	
預り金	269,752	
流動負債合計		2,698,184
2 固定負債		
退職給与引当金	6,000,000	
固定負債合計		6,000,000
負債合計		8,698,184
正味財産合計		18,011,332